

課題検討部会報告**地域における障害者等の居場所についての情報交換会****1. 目的**

障害者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けていくためには、日ごろ感じている課題等について、誰にも相談することなくあきらめてしまうことのないよう、支援者が状況に応じてニーズを把握し、共に解決に向かうことが重要である。

障害のある人もない人も「共に生き、互いを尊重し、応援し合える社会」のさらなる推進に向け、「地域で目配り、気配りができる体制づくり」に取り組み、障害のある人もない人も誰もが安心して暮らし、働くことができる地域社会を目指す。

2. これまでの経緯**令和4年度****◆三田市地域自立支援協議会「課題検討部会」による取り組み**

課題検討部会では、当事者と支援者が一同に会し、「地域で自立して暮らすには、どんな物(事柄)があれば安心か」をテーマに座談会を開催し、次の項目について重要性を確認しました。

- ① 障害者の日常生活での課題をいかに相談に繋いでいくか
- ② 親なき後を見据えた家族以外の人との関係作り
- ③ 当事者が社会とゆるくつながれる“居場所”の必要性

令和5年度**◆地域における障害者等の居場所についての情報交換会の実施**

事務局会議を重ねていく中で、当事者同士が集まる場（居場所）や、保護者が悩みを共有し合う場（親の会）を運営されている方々から、2回情報交換会を実施し以下のことを確認しました。

- ①当事者を地域の居場所につなげるためには、住んでいる地域に相談やふれあえる場があることを知ってもらう（認知度を高める）ことが第一歩となる。
- ②地域で活動する様々な居場所同士の連携を密にし、地域との関わりを深めるほか、地域資源、行政の企画を活用することなどが重要。
- ③居場所機能を発揮していくためには、新たに立ち上げるだけでなく、地域に根付き継続していく中で様々な関係機関につながり、手を取り合いながら個々の状況に応じたサポートを行うことが重要。

3. 今年度の取り組み

令和6年度は、今までの当事者からの意見を聞いた中で、当事者がひとり暮らしを考えている方がおられることを鑑み、既にひとり暮らしをしている方とひとり暮らしを希望する方との会合を2回設けました。

開催日	内 容	参加人数
令和6年 9月23日(月)	一人暮らしを希望する当事者と親が、すでに1人暮らしをしている当事者から意見交換をすることで1人暮らしに向けた課題を検討する	11人
《主な意見》 ・災害時の不安 ・一人暮らしの体験をする場がほしい ・家賃と収入のやりくりについて		
開催日	内 容	参加人数
令和6年 12月15日(日)	一人暮らしを希望する当事者と親が、すでに1人暮らしをしている当事者から意見交換をすることで1人暮らしに向けた課題を検討する	9人
《主な意見》 ・防災についての企画を実施し、実際に体験することを継続的に行っていく。 ・一人暮らしに踏み出せない理由は料理 ・地域コミュニティへの参加について ・住宅手当の有無は大きい ・災害、住まいについて、情報をどこで入手していいかわからない。		

＜今後の取り組み＞

・一人暮らしをする際に、災害時の不安をもつ方が多いことがわかりました。それを踏まえて危機管理課と協議をおこなった際に、毎年、2地域で防災マップをつくることにしており、防災マップの作成にあたっては、当事者が参画し、アクセシビリティの観点から多様なニーズに反映することについて確認をおこないました。

・昨年度に意見のあった当事者を地域の居場所につなげるためには、住んでいる地域に相談やふれあえる場があることを知ってもらう（認知度を高める）という課題に対し、今年度に三田市のイベントや地域情報がまとめて検索できる「ためまっぴさんだ」に障害福祉施設の掲載を開始（別紙参照）しました。

また、令和6年7月24日に居場所の代表者が集まって、「ためまっぴさんだ」の操作研修を実施しました。今後は、より多くの方に知ってもらえるよう事業の啓発を進めていくことを考えております。